

Youkobo & ECoC 2016 交換プログラム, Activity Report Part5 Kosice #3

Youkobo × KAIR 2016



Youkobo Art Space, Tokyo



平成28年度 文化庁
アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

目次

・まえがき 「AIR活動を通して欧州文化首都から学ぶこと」 村田達彦（遊工房アートスペース 共同ディレクター）

・寄稿 「続くパートナーシップ」 ズザナ・コティコヴァ（KAIRディレクター）

・参加作家 活動エッセイ・ポートフォリオ

1) 「KAIR Kosice - Youkobo Art Space Tokyo Exchange Residency」 ラデック・ブラウシル

2) 「暗い理由（わけ）」 駒井ひろえ

AIR紹介 Outline of the AIR Program

- KAIR, Kosice Artist in Residence

- Youkobo Art Space

- Microresidence Network

AIR活動を通して欧州文化首都から学ぶこと

村田達彦（遊工房アートスペース 共同ディレクター）

プログラムのあらまし

30年以上前・1985年に欧州文化首都制度が発足、1993年からは欧州文化首都と日本との文化交流が始まった。この欧州文化首都にあるAIRとアジアの大都市・東京にある遊工房とのアーティスト交換プログラムは、欧州文化首都2009 Vilniusから始まった。相互のAIR間のアーティスト交換による滞在制作を通じた交流プログラムである。これまでの欧州文化首都に制定されている都市での現代美術についての実態は、日本ではあまり紹介されていないが、非常に魅力的な展開が見られる。遊工房アートスペースでは、EU・ジャパンフェスト日本委員会の全面的な協力と支援のもと、欧州文化首都からの若手アーティストをレジデンスプログラムに積極的に受け入れてきた。欧州文化首都2013・Kosice(スロバキア)が欧州文化首都を機会にレジデンスプログラムを始めたことから、この交換プログラムの継続運用の道が開かれることになった。これまで、ロンドン、ベルリン、パリ、アムステルダムなどで活動するアーティストに偏りがちな来日のチャンスを、他の都市を拠点とする作家たちにも広げ、彼らのキャリアアップを支援したい。また、人物を招聘し、交流の機会を持つというプログラムの特質を活かして、日本におけるヨーロッパの現代美術の公平で正しい理解の促進にも寄与したいと考え、このプログラムを通じて培った交流をネットワークとして活用し、日本から欧州文化首都へ、日本の若手アーティストを派遣する機会もあわせて実現させ、継続的な芸術交流の促進を図っていく。

Kosice市のレジデンスプログラム、K.A.I.Rと、東京の遊工房が、双方の都市で、2-3ヶ月間の滞在制作の体験プログラムを基本にアーティストの交換を通じた交流の覚書を締結。(2012年)。2013年1月、遊工房にスロバキアからErik Silleが、同3月、K.A.I.R.に日本から洗川寿華、その後、日本から3名(2014・金井学、津田道子、2016・駒井ひろえ)、スロバキアから2名(2014・Boris Silka、2016・Redek Brousil)と継続、それぞれの都市にて制作した作品の展示と共に相互都市での交流が続いている。本報告書は、2016年の報告としてまとめものである。

欧州文化首都との活動のきっかけ

欧州文化首都との関わりは、2008年リトアニアからの2人のアーティストSaulius ValiusとDiana Radaviciuteの遊工房での滞在制作、発表がきっかけで、翌年、2009欧州文化首都リトアニア・ヴィルニスの機会に、EU・ジャパンフェスト日本委員会の支援を得て、両国のアーティストによる交流展「雨の太陽の出会いー虹の架け橋」が開催された。日本から12名のアーティストと2つの文化団体、リトアニアは9名のアーティストと地元の美術館などが参画、大きな成果を果たした。2010欧州文化首都・イスタンブールから若手アーティストMerveErtufanの遊工房での2ヶ月間の滞在制作受入、2013年ポルトガル・ギマライエスへの門田光雅の派遣、その後続くKAIRとの交換プログラムとともに、2014年からは、欧州文化首都2015・Pilsenにある西ボヘミア大学のサマースクール・ArtCampに若手アーティスト・佐々木美穂子を初派遣、このキャンプへの継続派遣はこれまでに20人となっている。そして現地のAIR、OPEN AiRとの交換プログラムも始まった。欧州文化首都2014・Rigaへは、国際Peper Object Festivalに柳井嗣雄、矢嶋一裕、Kurudigaレジデンスへ鍵岡アヌを派遣した。

遊工房で展開している、規模は小さいが、個々の顔が見えるアーティストの交換の試みは、同様の活動をしているレジデンス仲間との情報の共有により一層の発展が期待される。欧州文化首都ばかりでなく、アジアの都市での展開など「マイクロレジデンス」がその活動の核となるかもしれない。

(注1) 西ボヘミア大学サマースクール・ArtCampでの活動記録： http://www.youkobo.co.jp/related_activities/page4.html

(注2) Rigaでの滞在制作活動記録： <http://www.youkobo.co.jp/news/2015/03/european-capital-of-culture-ecoc.html>

(注3) 「マイクロレジデンス」のこと： <http://microresidence.net/>

続くパートナーシップ

ズザナ・コティコヴァ (K.A.I.R Košice Artist in Residence ディレクター)

K.A.I.R. Košice Artist in Residenceと遊工房アートスペースによるコラボレーションは2013年に開始した。以来、スロバキアから3名のアーティスト、日本から4名のアーティストがコシチェと東京でのエクステンジプログラムが展開された。また、2016年には駒井弘枝とラデック・ブロウシルが参加した。

2016年のエクステンジプログラムは特殊で、スロバキアアーティストはスロバキア人ではなかった。ブロウシルはチェコ人でプラハを拠点に活動している。彼はOskár Čepan Award (Contemporary visual artists in 2015)を受賞した2名のうちの1人であり、今回の東京での滞在制作に参加する機会を得た。2ヶ月間の東京での滞在は、本賞の20周年記念としての特別賞であった。

駒井は、通常のオープンコールで選ばれた。彼女のアプリケーションはK.A.I.R. の狙いが最も考慮された素晴らしいものであった。我々はいつも、滞在中の作品に積極的にローカルな環境を反映するアーティストを求めている。彼女の以前の作品は、建築に焦点を当てた鋭敏なコラージュであり、それらは共に活動するのに最適なアーティストあるということを確認させた。彼女は町の中心にある歴史的な建築とプレハブ方式ののパネルブロック建築地域のコンビネーションなど、近隣の建築の観察をして2ヶ月間コシチェで過ごした。彼女の視点と精密なコラージュ作品は、私たちの街の美しいシリーズ作品を作り出した。そのコラージュの展示「HIROE KOMAI, JAPONSKÁ UMELKYŇA, ŽILA A PRACOVALA V KOŠICIACH OD 9. OKTÓBRA DO 4. DECEMBRA 2016 (駒井弘枝、日本人アーティスト、2016年10月9日-12月4日コシチェにて滞在創作)」は、コシチェ市の中心にあるŠopa Galleryにて開催された。ここは、K.A.I.R.のスタジオと繋がりがあり、時折滞在アーティストが展示やプレゼンテーションを実施する。

K.A.I.R. Košice Artist in Residenceと遊工房アートスペースとの本エクステンジプログラムは、毎回作家やレジデンス、そしてローカルのアートシーンにとって、とても実りある成果を生み出している。私は来年も継続して共同し、スロバキアと日本のアーティストが出会い、新たな環境からインスピレーションを受ける機会が更にもたらされることが重要であると考えている。

KAIR Kosice – Youkobo Art Space Tokyo exchange residency

ラデック・ブラウシル

遊工房アートスペース・東京の交換プログラムの2ヵ月は、私が想像していた以上に、仕事、文化、芸術と人間関係の間で大変有意義な経験の1つとなり、それは私に、社会生活の面で非常に興味深いフィードバックを与えた。同時に、芸術家としての学びとなった。

遊工房は私が日本の美術関係の中に入るのを助け、素晴らしいサービスを提供し、最適な宿泊施設を提供した。

また、私の作品が一般に公開されるように、大学でのアーティストトークなどで、国際的な文脈で私の作品を共有するのにも役立った。

私は日本のメイクアップ産業に焦点を当てている。これはヨーロッパとは、まったく合い反するもので、文化的背景によって、女性は完全なパターンそしてフィットするように軽い肌色を作っている。その研究と制作結果は、遊工房での滞在の終盤でオープンスタジオとして展示した。

多くの新しい関係が生まれ、キュレーター、アーティスト、そして他分野の人々と出会った。ギャラリースペース、美術館、建築を沢山見学した。素晴らしいレストランで、美味しい食べ物も味わった。また、日本の文化により近づき、劇場、音楽、宗教などの民俗学などをより深く理解する機会も得た。

遊工房アートスペース東京のレジデンスを是非お勧めしたい。そして近い将来、多くの人に幸運と意気込みを持っていただきたい。

2017年1月25日

プラハ



Radek Brousil Born July 27, 1980 in Nitra, Slovak Republic, currently living in Prague, Czech republic www.brousil.name/



Studies:

2000 - 2001 - Academy of Arts in Brussels(Anderlecht) – Painting studio
2002 -2003 - Academy of Fine Arts in Prague - New Media studio
2006 - 2007 - Concordia University Montreal - Photography
2008 - 2009 - London College of Communication
2002 - 2009 - Academy of Art, Architecture and Design in Prague –
Studio of Photography - MgA diploma

Solo exhibitions:

March 2002 - Medicaments - painting and video installation, Addict Gallery - Brussels
March 2008 - St-Francis Comes To Montreal - Parisian Laundry Gallery - Montreal, Canada
June 2009 - Study Of A Young Man - Karlin studios - Prague, Czech rep.
August 2009 - Image vs Re ection - 35m2 Gallery - Prague
September 2011 - "Untitled 9 - Untitled 15" - Fotograf Gallery, Prague
January 2012 - "Untitled 19 - Untitled 21" - Atelier Josef Sudek, Prague
July 2012 - Variations - Ferdinand Baumann Gallery, Prague
September 2013 - Studio Works - OPEN Gallery, Bratislava
January 2014 - Studio Works - Fotograf Gallery, Praha
April 2014 - Studio Works 2(curated by Jiri Ptacek) - Plusminusnula gallery, Žilina
October 2015 - Hands Clapsed, FAIT Gallery Brno

Group exhibitions:

February 2004 - PRIVATE EVOLUTION - group exhibition in AAAD - Prague,
September 2005 - FOTO TYPO ZIVE - Langhans Gallery in Prague
September 2005 - JE DESIRE - group exhibition at AAAD gallery Prague
May 2006 - Sigmund Freud-LIFE IS BUT A DREAM-group exhibition at Prague's City Hall
March 2007 - PTV PRESENTS - Galerie Espace - Montreal, Canada
March 2007 - GET A LIFE - group exhibition - Fonderie Darling - Montreal, Can.
April 2007 - SOAP/SAVON - group exhibition - Art Mur gallery - Montreal, Can.
July 2007 - VICE photo exhibition – New York - USA
March 2008 - The Essence - Manes gallery - Prague, CZ
May2009 - Month of Photography - Krakow, Poland
June 2009 - Cup of Tea - AVU gallery - Prague
December 2009 - Residencias exhibition at Clube Portugese de Artes e Ideias, Lisbon
May 2010 - EGO portrait x photography - Langhans gallery - Prague
March 2011 - Twist - Tuica/Tusovka - golden PARACHUTES, Berlin

April 2012 - Coal and Steel - Candid Arts Trust Gallery, London
October 2012 - Hidden River - DOX, Prague
May 2013 - The Intimate Circle - Municipal Library, Prague
December 2013 - Construction Works, w/Jan Pfeiffer - TIC Gallery, Brno
March 2014 - 9th International Biennial Of Photography And Visual Arts Liège
October 2014 - SPOT, NTK Gallery Prague(curated by Milan Mikulastik)
October 2014 - Hands, TIC Gallery Brno(curated by Jiri Ptacek)
April 2015 - WYSINWYS - Soda Gallery(curated by Michal Stolarik)
October 2015 - Oskar Čepan Award Finalists exhibition
(cur. by Barnabas Bencsik) - Košice
November 2015 - ArtWorks Open, Barbican Arts Group Trust, London

Awards:

- Oskar Čepan Award Winner, Young Visual Artists Award 2015
- nominated for Foam Paul Huf Award 2015 Residencies:

2009 - Residencias artisticas at Clube Portugese de Artes e Ideias, Lisbon
2010 - Internship at PMgalerie, Berlin
2011 - Czech Centre Brussels, Belgium
2012 - Banská St a nica Contemporary, Slovakia

Books:

2013 - Asides, Artist book, published by Štokovec, Space for Culture

「暗い理由(わけ)」

駒井ひろえ

「暗っ！」これがコシツェの第一印象だった。そしてそれはこの街を去る2か月後も変わることはなかった。ラボレチカ(Laborecká 14)通りにあるタワーブロックの6階にある私の部屋から見える景色は、1991年にベルリンを訪れた時に感じたような心細さを少し思い出させた。真っ暗な中に薄っすらといくつものブロックが見えていた。灰暗い街灯がそこにあるのであろう遊歩道を劇場の舞台のように照らし出し、その先の見えない暗黒へと手招きしているように思え、私はますます心細い気持ちになった。その夜の風景がコシツェでの私の最初の作品になった。

私にとって制作活動は街を歩くことと建物の観察から始まる。建物の構造、素材、色、窓、雨とい、ドア、壁などその土地土地によって違いがあり、それを見つけたり観察するのが街歩きの醍醐味だ。その細部のひとつひとつがその街の気候や人々の営み、歴史を語っている。まさに民俗学、文化人類学のフィールドワークなのだ。コシツェは歴史地区を中心として成る街だが、中心以外のほとんどの建物はタワーブロックだ。日本の公団住宅の様な建物が街の四方八方に見られる。それらは共産主義時代に建てられたもので、時代によって多少の差はあるもののほとんどが同じように見える。家族構成ごとにデザインされた内装も、どの階も同じ作りで、例えば夫婦と子供が2人の家族はこの建物、というようにそれぞれの家族構成によって家が与えられたということだ。その建物群はまるでエッシャーの絵のようで一度その中に入ると出てこれなくなりそうな気がして一人では足を踏み入れることはなかった。当時は建物の色もほとんど同じだったという。現在は建物それぞれに違った色や柄があり、まるで巨大テトリスかヨゼフ・アルパースのペインティングのように見える。表面が変わっても建てられた当時に与えられた目的(今となっては何故そこにベンチがあるのかわからないような所にベンチがずらっと並んでいたりする)のままで社会の変化から取り残されたような少し哀しい、そこだけ時間が止まったような空間を所々に見かけた。一方、計画されたタワーブロックとは全く対照的に並列しているのが、まるで生物の様に混沌と広がるロマの人たちの家々だ。人を建物に当てはめるのとは真逆にまるで生物の様に無限に 増殖しているように見える。それらはおそらく拾ってきた何かの切れ端や代用品の積み重ねで出来ているのだろう。まさにクロード・レヴィ= ストロースのプリコラージュだ。スロバキアではロマの人たちの問題が深刻であるのは明らかであり無責任なことを言うべきではないがそのカラフルで独創的な建築物を見て思わず「アートや…」とつぶやいてしまった。



ヨーロッパを旅すると、時に珍しい目で見られることがある。その見方にはその土地によって違いがあるように感じる。コシツェではある一定以上の世代の人々からそれを感じた。それはなにか怒ったような、疑うような口元がへの字になった非常に強張った表情と視線だった。それは私が微笑みを返しても崩れることはなく、私はそれ以上のコミュニケーションの手段をあきらめてそそくさとその場を立ち去るしかなかった。勿論全ての人がそうであったわけでは決してない。若い世代は「共産主義は二世帯を完全に破壊した。」と言う。彼らの態度は共産主義時代の環境から来るリアクションだと言う。私の大きな疑問のひとつが「家族の中で共産主義時代とそれ以降で全く違った環境で育った者同士がどう理解し合っているのだろう。」という事だ。お店に行っても似たような対応が続き私は地元のお店や人々に接するのが怖くなってしまった。鬱々とした気持ちになった。何故なら私は地元色の濃い喫茶店や何でも屋みたいな雑貨屋や古い商店街に魅力を感じるからだ。それなのにそこにいる人達とコミュニケーションが取れないというのは悲し過ぎる。今まで西ヨーロッパを旅するときはコミュニケーションを取るために知っている単語をフランス語、スペイン語、ドイツ語など手当たり次第に並べ「お願い、なんとかわかって！（心の声）」と粘るのだが、スラブ語圏ではそうはいかない。それまで英語で通してきたことの怠慢さを反省しスロバキア語を学び始めた。特別なアルファベットと発音を覚え、簡単な表現を暗記する。それを毎朝アトリエに行く前に立ち寄るカフェのお兄さんに話しかけて発音や表現を直してもらった。自己紹介と挨拶を習っていざマーケットにスケッチをしに出かけた。スケッチが会話のきっかけになってくれれば、と思ったからだ。いぶかしそうに見る人もいたが、期待は功を奏して何人もの人達とコミュニケーションを取ることができた。この際会話が通じるか通じないかは重要で無い。お互いが笑顔で何かを伝えようと、そして理解しようとしていることがとても嬉しい。たった一言の現地語を話すだけで相手からの反応がもらえる。もう無言の無表情ではなくなるのだ。それが楽しくて少しずつ表現を増やして、ずっと行きたかった近所のお惣菜屋さんでお店のおばさんと「はい」「いいえ」レベルのスロバキア語とボディランゲージでなんとかチーズとハムを買う。その汗をかきながらの数分間のやりとりがとても楽しく、お店を出る時には達成感と満足の笑みが溢れている。

今回のレジデンシーでは私は地元の人達が「外国人アーティストの目から見た彼らの日常の風景」からなにかを再発見してもらえれば幸いだという思いで制作した。私の作品は建物だけで人物は出てこない。なのに今回のレジデンシーでいちばん印象に残っているのは地元の人達との出会いだった。毎日通ったカフェの皆さん、サンドイッチ屋のお姉さん、いつも明るいマーケットのおじさん達、言葉は通じないけれど根気よく理解しようとしてくれた額屋のおばさん、制作から個展までサポートしてもらったギャラリースタッフ、週末登山に連れて行ってくれた気さくで優しいお兄さん達、地元のアーティストのみんな、思い返すと枚挙にいとまがない。それらの出会いは私のコシツェでの生活をより充実したものにしてくれた。

もう一度コシツェに行きたい。そしてにあまり交流出来なかった世代の人たちを集めて紙一枚だけで表現できる折り紙ワークショップを行い、その人たちにとって全くのエイリアンである日本文化に触れてもらう機会を持ちたい。少しでも楽しいと思う人がいてくれれば私のこの街の印象はもう少し暗く無くなるのかもしれない。



Hiroe Komai Born in Japan, currently living in London, UK <https://hiroekomai.carbonmade.com/>



Education

2003 Goldsmiths College, University of London (MA in Fine Art)
2000 Camberwell College of Art (BA Sculpture and Ceramics, First Class Honours)
1993 Kyoto Seika University (BA Sculpture)

Selected Solo shows

2016 "Naapurini / My Neighbours", Nature Centre Ukko, Koli, Finland
2013 "The Style", C&C Gallery, London
2012 "Mirror Phase", Ganapati, London
2011 "Visible Fractals", Slaughterhouse, Valencia, Spain
2010 "Sunshine Hit Me", Gallery Haneusagi, Kyoto, Japan
2009 "Modern Living", Shinbi, Kyoto, Japan

Selected Group Exhibitions / Art Fair / Artist in Residency / Curation

2015 "Positions Berlin Art Fair", Arena Halle, Berlin
"Double Agency", ArtKapsule At Koleksiyon, London
"Doppelgänger", No Format, London
"London Art Fair", Business Design Centre, London
Artist in Residency, Kolin Ryyänen, Koli, Finland
2014 "Auction" C&C Gallery, London
"The Alpineum Minimale 2", Alpineum Produzentengalerie, Luzern, Switzerland
"Tod und Sterben Death and Dying", MGA3, Vienna, Austria
"ArtAthina International Contemporary Art Fair of Athens", Faliron Pavilion, Athens, Greece
"Kit Shrines", Divus, London
2013 "Offline Art Fair", Embassy Tea Gallery, London
"Trajector IntermezzoRematch!", Hotel Bloom, Brussels, Belgium
2011 "Preview Berlin", Tempelhof Airport, Berlin
2009 "Three By Three 4" (CoCurate), Yinka Shonibare's Space, London

K.A.I.R. Košice Artist in Residence

In the frame of “European Capital of Culture” the NGO “Kosice 2013” is developing an international artist-in-residency-program for emerging artists from all over the world and out of all artistic disciplines and expressions. We give them the possibility to become a cultural pioneer and work in the inspire environment of Kosice’s singular cultural surrounding to realize art projects, collaborate with the agile local art scene and present themself to the local and national public.

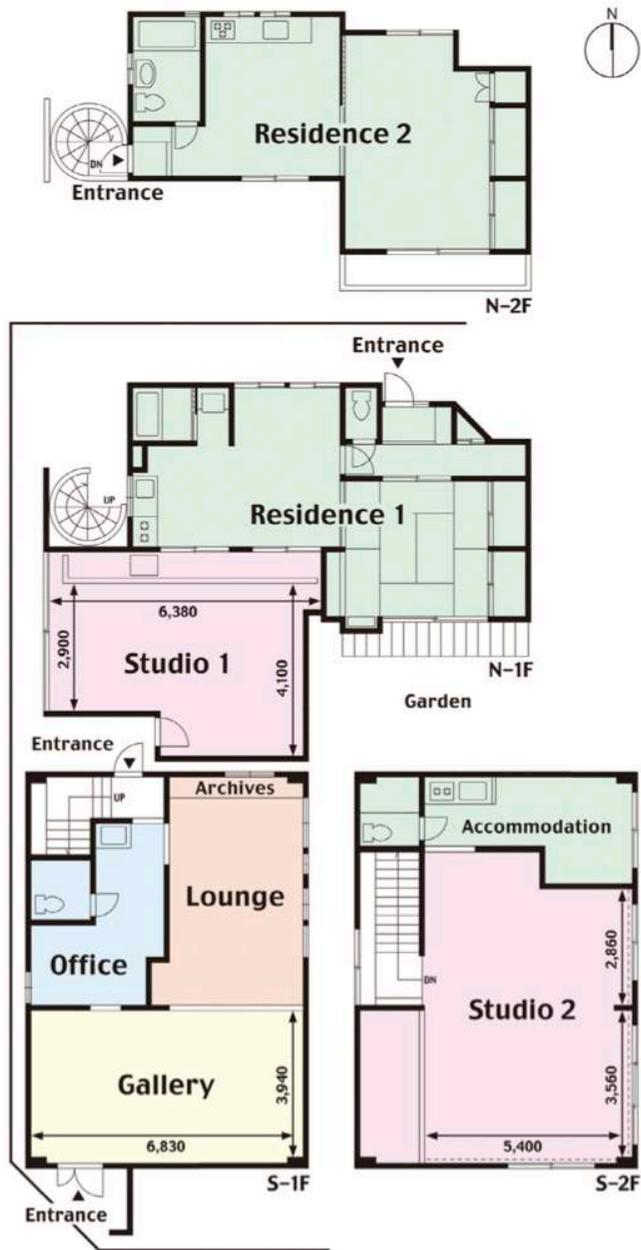
We pursuit three main goals within this residency-project:

Support the creative energy of every invited artist and give him/her the chance to work in a new and very special environment to find (new) artistic ways to express.

Stimulate the art scene in Kosice, in the region and in whole Slovakia. Support the dialogue as well as the confrontation of the residency-artists with local artists and the wide public.

Create/strengthen a beneficial environment for the development of inovative and international contemporary art projects with international and local participants.





遊工房アートスペースのなりたち

遊工房アートスペースは、1980年代より美術教室、彫刻アトリエ、アニメーション・スタジオなど、様々な美術活動の「場(スペース)」となりました。1950年代から80年までは、診療所兼療養所として使われていましたが、時代の変遷と共に姿を変えました。2001年、さらに活動を充実させるため、主に現代美術の発信を目的とするギャラリー、創作スタジオ及び滞在施設を備えたアートの複合施設として生まれ変わりました。グローバルなアーティストとの交流や、地域に根ざした芸術活動の場となり、同時にアーティスト・イン・レジデンスも本格化し、着実に歩みを重ねています。

ギャラリーは、近年では珍しいリベット工法の鉄骨が剥き出しになった高い天井のホワイトキューブの快適な空間で、隣接したラウンジは、交流とアーカイブ資料閲覧のスペースです。また、併設の創作スタジオ及びアーティスト・イン・レジデンスもご利用頂けます。これまでに、20ヶ国200名余りの海外からのアーティストが滞在し、活動を通して新たな経験を積むとともに、200名を超える国内外の若手アーティストを中心とした展覧会が行われています。(2014年3月現在)

東京・杉並区の西北に位置し、近隣には、都立善福寺公園、井草八幡宮、善福寺など、緑豊かな環境が残り、都心までのアクセスも良好です。ご利用など、詳しくはホームページをご覧ください。



〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-2-10

Phone: 03-5930-5009 Fax: 03-3399-7549

E-mail: info@youkobo.co.jp

youkobo
ART SPACE

マイクロレジデンス・ネットワークの始まり

マイクロレジデンス提唱者

遊工房アートスペース・共同代表

村田達彦

アーティスト・イン・レジデンス（AIR）とは何か？と問うた時に、ひとくくりでは語れない現状がある。事業内容、運営主体、規模などが異なる多様な形が在るからだ。AIR 事業の基本は、生活者としてのアーティストの創作活動の場と機会を提供するものと捉え、これらの運営体・活動を総称したものを、「マイクロレジデンス」とする提案である。

このウェブサイト、AIR のネットワーク「Microresidence.net」は、マイクロレジデンスの顕在化と相互の活動の促進が図られ、AIR の存在が、社会的な器となることを期待する有志により始まった。2012 年秋、東京に参集したマイクロレジデンス・ディレクター（パッチャルな集いも含む）を中心に、各 AIR 運営者の責任のもとに発信することで準備が始まり、2014 年 1 月運用開始した。

多くのアーティストや関連する方々に認知され、アーティストの創作活動の場と機会となり、アートが社会に不可欠である証として、AIR 活動が重要な社会装置であることを広く周知させるために、一層多くのマイクロレジデンス機関の参画を期待している。

マイクロレジデンス・ネットワーク

www.microresidence.net

（注）Web 発足にあたり、2012 年の調査への積極的な応答をくださった国内外のマイクロレジデンス、そして、2012 年秋、東京の遊工房アートスペースで行われたマイクロ・ディレクターズ・トークにご参集くださった皆様に深く感謝申し上げます。2012 年の集いの活動内容と成果は、下記を参照頂きたい。

http://www.youkobo.co.jp/microresidence/index_en.html

